

對しても種々の障碍又は異常を惹き起さしむる場合が多いと云ふ事は容易に考へ得られる事でもあり、又たとへ是等の影響が單に中樞神經系統以外の他の身體的器官にのみ其發育障碍又は異常を來したにしても、それは多くの場合やがて二次的に中樞神經系統の發達に大なり小なりの影響を次第に及ぼして行く事及び其逆の場合もあり得る事は容易に考へ得られる事であります。されば此二者の間には多くの場合に密接なる關係が事實上存在する事は當然の事と云へませう。

(以下次號)

白百合と銀河

白百合の花は、純潔、溫和なぎの意味をもつて居ります。むかし、あるところに、アルクミナといふ美しい人がございました。あまり美しいので、遂にジュビターの神様の寵愛を蒙り、ハーキュリーズといふ、玉のやうな男の兒を生みました。ジュビターの妃のジュノーは、これを快からず思ひ、二匹の毒蛇をハーキュリーズの搖籃に放ち、すやすや眠つてゐる幼いハーキュリーズを咬み殺さようと思いました。しかし、ハーキュリーズは生れながらに力が強いので、蛇を自分で殺してしまひました。

そこでジュノーは尙更憤り、ハーキュリーズを自分の宮殿にまねいで殺す計畫をいたしました。無邪氣なハーキュリーズは、美しい宮殿に参りまして、ジュノーの膝にもたれ、嬉々として笑ひ戯れ、一向恐しいはかりごまを知るよしありませんでした。それで、さすがのジュノーも、この可愛いらしいをさなごの様に心がくだかれて、思はず抱き上げ、やさしい接吻をしてやりました。

この時、急にジュノー女神の乳房に痛みを覺えたので、ぎうしたこまか、よく見ますと、ハーキュリーズはジュノーのお乳を吸つてよろこんでゐるのです。

こまで、この恐ろしい女性も、情愛の絆にもだされ、自分の淺ましさを深くはぢ入りました。

この時、ジュノー女神の乳房からはお乳が迸つて、天に懸つてゐる銀河となり、地に落ちては美しい白百合の花になりました。

銀河と白百合とは共に幼い子供の無邪氣さから、この世に出來たものです。